

第33回

能のことはばを読んでみる会



能画刊行会「能楽画譜 第8集」(能画刊行会、大正7年～9年)より《巻絹》

まきぎぬ
今回 テーマ曲 **巻絹**

都から熊野に巻絹を持ってきた男は途中、音無の天神で和歌を手向けたために遅くなり、朝臣により縛られる。すると音無の明神が巫女に取り憑いて現われ、男のなわを解いてやり、歌の徳などを語り、神楽を舞う。

巻絹は軸に巻きつけた絹の反物。新年にふさわしく、熊野の靈験を語る神楽歌の内容を見てみましょう。

日本の伝統芸能「能」のことはば(詞章、謡曲とも)は、和歌や漢詩・歴史など古典文化の宝庫です。でも「難しそう」と能が好きな人でも**なんとなく**としか分かっていないことも、意外に多いのではないのでしょうか。

3か月に1回、テーマ曲を定め、一緒にことはばを読みながら、能の内容に一步踏み込み、理解のポイントを増やすことを目指す会です。

進行役：**朝原広基** (能楽研究家・能楽と郷土を知る会代表)



令和5年(2023年)
1月28日(土)18時00分～

(終了予定 20時00分ごろ)

会場：**芦屋能舞台** (兵庫県芦屋市松ノ内町 10-16)

参加費：**1,000**円(当日支払)

定員：**14**名 ※事前申込制

主催 **能楽と郷土を知る会**

申込・問合先 電話：090-3969-1608 (朝原)

e-mail：info@noh-gaku-kyodo.com

能楽と郷土を知る会ウェブサイト

<https://noh-gaku-kyodo.com> からもお申込みいただけます



阪急神戸線「芦屋川」駅下車 徒歩3分

JR神戸線「芦屋」駅下車 山側出徒歩10分

※来場者用の駐車スペースはありません

公共交通機関または近くのコインパーキングをご利用ください

3か月に1回催しております「能のことばを読んでみる会」。

「能のことばを読んでみる会」は、日本の伝統芸能である「能」の演目を一つとりあげ、一緒に、そのことば(詞章)を読むことで、能の内容に一步踏み込むことを目指す、気楽な勉強会です。

日本の伝統芸能「能」のことば(詞章、謡曲とも)は日本文化の宝庫です。でも、なんだか難しそうで、能が好きな人でも「なんとなく」としか分かっていないことも、意外に多いのではないのでしょうか。

主催者の私も同じです。この会をするようになってから、普段どれだけ能のことばを「なんとなく」読んでしまっていることか、感じることばかりです。

でも、それは「もったいない」と思いませんか？

主催者は責任をもっていろいろ話題を提供しますが、参加者の皆さんも一緒に読む中で感じたこと、能を見たり、稽古したりする際の、より深く楽しむ”きっかけ”にできることを目的に開催しています。